

釧新郷士芸術賞に輝く

受賞者の
横顔

□ 3 □

大学卒業と同時に
研究所を開設

木戸さんは昭和十二年七月八日、サハリンで生まれ、

翌年旧満州へ移住し、八歳で同吉林省で終戦を迎えた。釧路市へ引き揚げてから、釧路湖陵高へ進み、さらに日本女子体育大学を三十四年卒業。卒業と同時にバレエ研究所を持った。このとき、木戸さんは市立共栄中学校の体育の教師だった。その後、道立釧路江南高校、同商業高校の教師をつとめるかたわら、バレエ

研修のため、生徒七人とともに上京した。それ以後、毎年のように上京している。そして、根室研究所を開設、発表会を開き、さらに一九七六年には訪ソし、レニングラードバレエ学校で十日間のレッスンを受けている。また、五十一年度芸

このファイトは八歳の日に見た終戦の日以後、引き揚げ者としての苦難の日々が、大きなバネとして木戸さんのその後の精神的支柱

脇見はしないという頑固さを持ちているようです」とほほえむ木戸さん。
いまは愛娘、亜樹恵さんがアジア全日本バレエコンクールで準決勝にまで進み、イタリアのポローニア市バレエスクールに留学し、バレリーナーとしての道を歩んでいることに力を得ているようだ。「来年は研究所も新築しなければと思います」と話しながら「うち若い教師たちも結婚し、それぞれ指導者の道を歩もうとしています」と目を細めるあたりは、大勢の若い人を育てたよろこびに満ちている。「もっと年を経

「道」を定めて一筋に

訪ソ、上京で研究重ねる

となっていたのかもしれない。「進む方向を見定めてからは、その障害を一つずつ排除しながら進み、決して

〔略歴〕 昭和十二年サングラードバレエで受賞、五十二年同校コミサ女子体育大を三十四年卒業、同年、きみよバレエ研究所開設、四十七年根室に同研究所を開設する。五十一年訪ソ。レニ

バレエ

木戸 公代さん

釧路市弥生2



昭和五十二年にはレニングラードバレエ学校のコミサロフ教官を、同研究所に招き二十四人の生徒が、二週間受講した。その後、再訪ソし、五十四年には創立二十周年記念発表会（市厚生年金体育館）さらに六十年には創立二十五周年記念

幸せなバレエ一途の日々
でしたと木戸さん



「眠れる森の美女」の舞台

アップル君

木崎征夫

